



Tohoku Ryokka Kankyochozen

～PRESS RELEASE～

2026 年 6 月 1 7 日

東北緑化環境保全株式会社

東北緑化環境保全 全社安全大会を開催

～協力会社 84 社と「安全第一」の意識を共有～

東北緑化環境保全（仙台市、社長 山形安生）は 6 月 2 日、協力会社 84 社と共に全社安全大会を仙台市で開催した。大会には山形社長ほか全役員、全事業所の幹部社員のほか、協力会社の代表者ら 129 名が参加。安全意識を共有し無災害を誓い合った。

開会にあたり挨拶した山形社長は、日頃の安全活動への謝意を述べた後、安全第一を言葉だけで終わらせない 3 現主義（現地・現物・現人）を重視した実践の必要性和、自身が信条とする「あ・い・し・て・る（あ＝挨拶をする、い＝命を大切にすること、し＝社会の目線で見ること、て＝定見を持つこと、る＝ルールを守ること）」の趣旨について触れ、現場でのチームワークと風通しの良い職場づくりの大切さを強調した。「本大会では、参加者全員がコミュニケーションを深め、安全への取り組みを一層強化するために心合わせをする場としたい」と述べた。

安全講演では、「答えは現場にある」をテーマに東北電力の 吉田篤・安全保安管理室副室長が登壇。事故防止のヒントは常に作業の最前線に潜んでいると指摘。現場に足を運び、現物を手に取り、現実を直視する姿勢の重要性を改めて説いた。

続くプログラムでは、東北緑化の 2025 年度安全パトロールの実績を報告。現場での良好事例などを水平展開している取り組みを紹介した。

また、同社が推進する安全教育動画「TAViS」の視聴についても紹介し、作業員一人ひとりの安全意識および危険感受性の向上に効果的であることを説明。映像配信サービスにより協力会社でも視聴できることから、積極的な活用を促した。

協力会社への安全表彰では、効果的な施策を講じ、業務の効率化と無災害を継続している 7 社を表彰。庄内園芸緑化（山形県酒田市）の渡部敦社長が受賞者を代表し、「この受賞を一番喜んでいるのは現場の社員。今後への大きな励みになる」と感謝の意を述べた。その後、高橋組（宮城県白石市）の佐々木孝哲現場責任者と会津法面（福島県南会津町）の板橋利成工事部長がそれぞれ施工事例を紹介し、各社の工夫を凝らした安全対策や知見を共有した。

以 上

[添付写真]

(1～2 枚目) 本大会の開会にあたり挨拶する山形社長

(3 枚目) 参加者全員で「安全スローガン」を唱和

